

# Contest

## 【過去の結果発表】

### 2002年童謡アレンジコンテスト 結果発表

ズーラシアンブラス作曲コンテストの最初のカテゴリ『童謡アレンジコンテスト』が行われ、18作品の応募があり、3つの入選作品が選ばれました。参加年齢も15歳から40代後半まで幅広い方々が参加下さり、力作揃いでした。応募下さった皆さん本当にありがとうございました。入選された皆さんおめでとうございます。4月中旬をメドにZOORASIAN BRASS Web shopにて販売を開始いたします。残念ながら、惜しくも入選に至らなかった皆さんも、次回の『ファンファーレコンテスト』に再度挑戦してください。(2002/03/31)

01: おさるのかごや 編曲者：磯野 アキコ

02: 大きな古時計 編曲者：磯野 アキコ  
試聴は→[こちら](#)

03: 気のいいあひる 編曲者：HIRAIDE HISASHI  
試聴は→[こちら](#)

#### 【コメントとプロフィール】

01: 『おさるのかごや』

いっそげーやいっそげ！エッサ、ほーいさ！！

の弾むリズムとスピード感が楽しい、東海道五十三次アレンジです。

腕っぷしのいいお猿さんが、コロコロこぶしを回して歌自慢。合いの手入れるのもこれまた愉快。

べらんめえでスットコドッコイなお気楽人情五重奏です。

2002年4月 磯野亜希子

● 磯野 アキコ

尚美学園 電子楽器科卒業。

アレンジャーのアシスタントなどを経験後、一般企業に勤務。高校時代は吹奏楽部に所属し、チューバをこよなく愛す。

02: 『大きな古時計』

美しくてせつない、おじいちゃんの暖かい思い出が詰まった名曲を、無理なく響くように編曲しました。

原曲を大事にしつつ、5人全員がメロディーを奏でるような心地よさを味わえます。

繰り返しの部分には『チクタクチクタク...』を随所に見え隠れさせ、一度目とは違うアプローチが楽しめます。

そして心に小さな灯火を照らすように、おだやかにエンディングを迎えます。

2002年4月 磯野亜希子

● 磯野 アキコ

尚美学園 電子楽器科卒業。

アレンジャーのアシスタントなどを経験後、一般企業に勤務。高校時代は吹奏楽部に所属し、チューバをこよなく愛す。

03: 「気のいいあひる」

私は長く小学生の管楽器合奏指導に関わってきました。現在は残念ながら指導現場から離れていますが金管楽器の合奏、特にブラスバンド(金管バンド)の響きが大好きです。そんな私が今回、ZOORASIAN BRASSが童謡アレンジコンテストを開催していることを2月中旬に偶然知りました。そこで、金管五重奏のための編曲に初めて取り組んでみました。締め切りまでの時間が無かったので、選曲から編曲終了まで日曜日の数時間を使って一気に書き上げました。

ZOORASIAN BRASSが主催するコンテストなので「ぜひ動物に関係した曲を」と考え、選んだのが「気のいいあひる」です。私自身がアマチュアTuba奏者でもあるので、Tubaをあひるに見立てて1分25秒ほどの長さに編曲しました。この短さなので、気軽に取り上げることができるでしょうし、全てのパートがどこかでメロディーを担当するようにもしましたので、ふだんメロディーがあまり出てこないと感じているプレイヤーにも満足していただけると思います。技術的に少し難しくなってしまった部分もありますが、私が指導していた小学生の技量でも練習を重ねれば演奏可能な技術レベルを想定して編曲しました。

ぜひ、多くの人たちにこの曲を取り上げていただき、様々な個性のアヒルたちを全国各地で誕生させていただきたいと願っています。

2002年3月30日 HIRAIDE HISASHI

● HIRAIDE HISASHI

1957年北海道生まれ北海道教育大学(幼児教育専攻)卒業1970年より吹奏楽においてTubaを担当する。

1977年より1980年まで市民バンド(旭川交響吹奏楽団)のトレーナーをつとめる。1981年より小学校教諭となり、指導した吹奏楽部・金管バンドを吹奏楽連盟主催の北海道吹奏楽団体コンクール(支部大会)に導く。現在、雄武町立豊丘小学校教頭、北海道吹奏楽連盟北見地区常任理事

#### 【審査員】

中川 幸太郎 作曲家

中川 喜弘 Trumpet 奏者・アレンジャー

大塚 子龍 ZOORASIAN BRASS 専属アレンジャー

佐藤 和彦 Tuba 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

#### 【総評】

皆さんよく勉強されていて、予想以上に素晴らしい作品が集まり審査員一同感心していました。コード進行などもほとんどの方がきちんとできていました。

入選の分かれ目は、金管五重奏の特徴を引き出せているか否かになりました。入選に至らなかった作品は、ピアノの右手と左手を5つの楽器に振り分けただけのアレンジが多いように思えました。結果として、金管五重奏の楽しさ、美しさ、華やかさが表現できず、中にはピアノやエレクトーンで演奏した方が綺麗なのではないかというアレンジもありました。こうした作品の多くは、1st Trumpet:主に旋律、2nd Trumpet:主に1st Trumpetのハモリ役、French Horn&Trombone:主にリズム打ち&オブリガート、Tuba:リズムベース専門、という構図になっていました。特に、2nd TrumpetとTubaの扱いが金五らしくない作品が多かったように思えます。

また、アレンジャーの腕の見せ所とも言えるイントロ部が、市販されているピアノ譜のように短い作品が多く、旋律にはいと単調なリズムが目立ちました。管楽器が弦楽器や鍵盤楽器と大きく違う点に、単調さに聴衆が極端に耐えられないと言ったことが揚げられますので、管楽器の持つ色彩感を武器にいかに関開できているかが審査のポイントとなりました。